

1. 共通事項

- (1) 特論は15時間履修で1単位、演習は30時間履修で1単位、特別研究は45時間履修で1単位とする。
- (2) 大学院学生（以下、学生という。）は履修内容をシラバス（ホームページ等）に掲載するので、各自確認し、主任指導教員の履修指導を受けるものとする。
- (3) 大学院設置基準第14条による履修生（社会人）は、昼間も履修することができる。
- (4) 学生は、年度毎の指定の期日までに、主任指導教員の履修指導に従い、履修科目届を研究科長に提出しなければならない。（学生は、履修科目届のコピーをとり各自確認する。）研究科長は、履修科目届をもとに各科目毎の履修者一覧表を作成し各教員へ通知する。
- (5) 各科目担当教員は、年度末に配布される評価票に評点を記入のうえ、押印し研究科長に提出する。
- (6) 単位認定と修了認定
 - ア. 修士・博士前期課程
単位修得状況と審査委員会の報告に基づき、学位授与の判定を大学院委員会で行う。
 - イ. 博士課程・博士後期課程
大学院委員会で単位修得状況の確認後の評価は、学位論文審査要旨における各科目最終試験の結果となる。大学院の修了認定は、論文提出と合わせ、研究科委員会で行う。
- (7) 各専攻・課程の授業科目の外に、医学系研究科共通選択授業科目として7つの教育コースを開講している。学生は配布されたCD（あるいはDVD）に保存された、1単位あたり7～8つのコンテンツを教材として自主学習し、3つのコンテンツについて、指定された課題についてのレポートを大学院教育支援室に提出する。

2. 医学専攻博士課程

(1) 教育研究上の目的

優れた倫理観を基盤に、自立して研究活動を行うための高度な教育研究を行うとともに、医学研究者、又は優れた研究能力と豊かな学識を備えた臨床医若しくは医療人を養成することを目的とする。

(2) 単位の修得方法（腫瘍専門医コースを除く。）

ア. 学生は、下表に従って単位を修得する。（なお、大学院公開セミナーは特論の一部とみなすことができる。）

主科目 20単位以上	主科目1 12単位以上 (特論 8単位以上、演習4単位以上) *志望部門の特論・演習を履修する。
	主科目2 8単位以上 (特論 4単位以上、演習4単位以上) *主科目1と異なる医学群から履修すること。
副科目 4単位以上	(特論 2単位以上、演習2単位以上) *主科目1と同じ領域または腫瘍専門医コース授業科目から選択する。腫瘍専門医コース授業科目について、トレーニングコース科目は演習2単位として取り扱うものとする。
選択科目 6単位以上	*6単位以上を部門を越えた7つの教育コースまたは腫瘍専門医コース授業科目から履修する。 ただし、腫瘍専門医コース授業科目については2単位を越えない。

*学群・領域は医学専攻博士課程授業科目表（6頁）を参照のこと。

イ. 特論は、学会参加によって履修することができる。学会（地方会を含む。）

出席1回につき1単位（15時間）とみなす。学会発表を行った場合は、演題

1 題につき、2 単位（30 時間）とみなす。ただし、この単位は 2 単位を越えない。

ウ．大学院公開セミナー

大学院公開セミナーは各部門で実施されるセミナー及び非常勤講師等による特別講義をあてることができる。大学院の部門は、定期的に公開セミナーを企画して実施する。公開セミナーの企画にあたっては、各部門に一任する。公開セミナーのテーマは、各年度の当初に部門で行われる抄読会、検討会等と合わせ学生に通知する。（大学院公開セミナーは特論の一部とみなすことができる。）大学院公開セミナーを在籍中に、必ず 15 回以上受講しなければならない。

エ．演習の 4 単位は、4 時間×30 週の履修が必要である。履修方法は、指導教員の指示に従う。なお、演習の履修は各部門で行われる抄読会、検討会及び病理所見会によって替えることができる。この場合、通算 15 回の出席で 1 単位とみなす。

オ．各科目担当教員は、特論及び演習の評価票に基づき各学生の履修状況を確認し、評点を記入のうえ、押印し、研究科長に提出する。学生は、各年度末に当該年度の大学院セミナーの受講結果を研究科長に提出する。

(3) 単位の修得方法（腫瘍専門医コース）

ア．学生は、下表に従って単位を修得する。

博士課程（腫瘍専門医コース）	
系統講義コース科目	6 単位以上
トレーニングコース科目	22 単位以上
アドバンスドコース科目	2 単位以上
計	30 単位以上

イ．系統講義コース科目の特論は、学会参加によって履修することができる。学会（地方会を含む。）出席 1 回につき 1 単位（15 時間）とみなす。学会発表を行った場合は、演題 1 題につき、2 単位（30 時間）とみなす。ただし、この単位は 2 単位を越えない。

3．生命科学専攻

(1) 教育研究上の目的

ア．博士前期課程

医学・生命科学分野の多様化する医学関連領域の高度な教育研究を行うとともに、優れた倫理観のもとに幅広い知識と技術を有し、社会的ニーズへ貢献できる高度専門職業人、又は研究者を養成することを目的とする。

イ．博士後期課程

医学及び生命科学分野における最先端の知識と技術を通して、多様な社会の発展に貢献するための高度な教育研究を行うとともに、優れた倫理観と豊かな学識を備え、自立した技術者、又は研究者を養成することを目的とする。

(2) 単位の修得方法

学生は、下表に従って単位を修得する。

生命科学専攻				
博士前期課程		博士後期課程		
必修科目	10 単位以上	選択科目	領域Ⅰ	6 単位以上
選択科目	20 単位以上		領域Ⅱ	6 単位以上
計	30 単位以上	計		12 単位以上

(3) 7つの教育コースの履修

ア. 博士前期課程

○ 特論（選択）については7つの教育コースの科目より2単位以上履修するものとする。ただし、他の履修科目において教材として使用されている7つの教育コースの科目は履修できないものとする。

○ 演習（選択）については、7つの教育コースを履修しない。

イ. 博士後期課程

○ 領域Ⅰの特論については7つの教育コースの科目より2単位履修するものとする。ただし、博士前期課程においてすでに修得済の科目及び他の履修科目において教材として使用されている7つの教育コースの科目は履修できないものとする。

○ 領域Ⅱについては、7つの教育コースを履修しない。

(4) 他専攻の授業科目の履修

ア. 博士前期課程

選択科目の内10単位を越えない範囲で修了に必要な単位として認めることができる。

イ. 博士後期課程

領域Ⅱの1／2（2単位）を越えない範囲で修了に必要な単位として認めることができる。

4. 機能再生医科学専攻

(1) 教育研究上の目的

ア. 博士前期課程

優れた倫理観の上に立ち、遺伝子及び再生医療を中心とした機能再生医科学分野の幅広い高度な教育研究を行うとともに、当該分野の高度な専門職業人、又は研究者を養成することを目的とする。

イ. 博士後期課程

優れた倫理観を基盤に再生医学、遺伝子医学及び染色体工学の分野で自立して研究活動を行うための高度な教育研究を行うとともに、当該分野の優れた研究能力と豊かな学識を備えた臨床医、教育者、又は研究者等を養成することを目的とする。

(2) 単位の修得方法

学生は、下表に従って単位を修得する。

機 能 再 生 医 科 学 専 攻			
博 士 前 期 課 程		博 士 後 期 課 程	
基礎科目	4 単位以上	学際領域科目	2 単位以上
学際領域科目	4 単位以上	コア専門科目	6 単位以上 (演習含む)
コア専門科目	6 単位以上 (演習含む)		
選択専門科目	2 単位以上	選択専門科目	2 単位以上
特別研究	1 2 単位	臨床現場実習＊	2 単位
臨床現場実習＊	2 単位	計	1 0 単位以上
計	3 0 単位以上	＊医学科以外の卒業生に必修であり、博士前期又は後期課程のいずれかで履修する。	

(3) 7つの教育コース及び他専攻の授業科目の履修

ア．博士前期課程

○ 7つの教育コースの科目より2単位以上履修するものとし、これは、基礎科目、演習を除くコア専門科目、学際領域科目、選択専門科目の中で、他専攻の科目で修得した単位との合計が8単位を超えない範囲で、修了に必要な単位として認めることができる。科目ごとの制限は設けない。7つの教育コースと他専攻の科目を機能再生医科学専攻のどの科目に対応させるかは、指導教員の履修指導による。ただし、他の履修科目において教材として使用されている7つの教育コースの科目は履修できないものとする。

イ．博士後期課程

○ 7つの教育コースの科目より2単位以上履修するものとし、演習を除くコア専門科目、学際領域科目、選択専門科目の中で、他専攻の科目で修得した単位との合計が5単位を超えない範囲で、修了に必要な単位として認めることができる。科目ごとの制限は設けない。7つの教育コースと他専攻の科目を機能再生医科学専攻のどの科目に対応させるかは、指導教員の履修指導による。ただし、博士前期課程においてすでに修得済の科目及び他の履修科目において教材として使用されている7つの教育コースの科目は履修できないものとする。

5. 保健学専攻

(1) 教育研究上の目的

ア．博士前期課程

優れた倫理観の上に立ち、看護学及び臨床検査医学分野の幅広い高度な教育研究を行うとともに、当該分野の幅広い知識と技術を持ち合わせた研究者、又は専門看護師や臨床検査技師などの高度専門職業人を養成することを目的とする。

イ．博士後期課程

看護学と医用検査学を分離させることなく、双方を融合・一体化させ、科学

的根拠を更に強化した統合保健学の樹立を掲げながら、保健学の教育・研究者の育成を図ることを目的とする。

(2) 単位の修得方法

学生は、下表に従って単位を修得する。

保 健 学 専 攻			
博 士 前 期 課 程		博 士 後 期 課 程	
共 通 科 目	6 単位以上	共 通 科 目	2 単位
専門教育科目	1 4 単位以上 (演習含む)	専 門 科 目	1 0 単位以上
		計	1 2 単位以上
特 別 研 究	1 0 単位		
計	3 0 単位以上		

※ 博士前期課程は専門教育科目のうち6単位までは臨床心理学専攻の選択必修科目A～D、及び選択科目を履修し、修了に必要な単位として認めることができる。

6. 臨床心理学専攻

(1) 教育研究上の目的

ア. 修士課程

こころの問題の複雑化・多様化に対応できる臨床心理学分野の高度専門職業人の育成を目指す*。特に、医療・保健領域の専門家と緊密に連携・協働し、高度化する医療の要請にも対応できる心理臨床家の育成を図ることを目的とする。

* 日本臨床心理士資格認定協会第一種指定大学院として認定。

(2) 単位の修得方法

学生は、下表に従って単位を修得する。

臨床心理学専攻	
区 分	修士課程
必修科目	2 6 単位
選択必修科目 A	2 単位以上
選択必修科目 B	2 単位以上
選択必修科目 C	2 単位以上
選択必修科目 D	2 単位以上
選択必修科目 E	2 単位以上
選択科目	2 単位以上
計	3 8 単位以上

医学専攻博士課程授業科目表

領域	部 門 名	授 業 科 目	単位数	領域	部 門 名	授 業 科 目	単位数
形態・機能制御医学	ゲノム形態学 (1 解剖) ㊦	ゲノム形態学特論 ゲノム形態学演習	8 4	社 情 会 報 環 医 境 学	地域医療学 ㊦	地域医療学特論 地域医療学演習	8 4
	形態解析学 (2 解剖) ㊦	人体形態学特論 人体形態学演習	8 4				
	統合分子医化学 (生化) ㊦	分子代謝制御学特論 分子代謝制御学演習	8 4	発達加齢適応医学	適応生理学 (2 生理) ㊦	適応生理学特論 適応生理学演習	8 4
	分子薬理学 (薬理) ㊦	薬物作用学特論 薬物作用学演習	8 4		病態情報内科学 (1 内) ㊦	病態情報内科学特論 病態情報内科学演習	8 4
	皮膚病態学 (皮膚) ㊦	皮膚病態学特論 皮膚病態学演習	8 4		周産期・小児医学 (小児) ㊦	発生・発達解析学特論 発生・発達解析学演習	8 4
	運動器医学 (整形) ㊦	運動器医学特論 運動器医学演習	8 4		器官再生外科学 (2 外) ㊦	器官再生外科学特論 器官再生外科学演習	8 4
病態解析・制御医学	薬物治療学 (臨薬) ㊦	薬物治療学特論 薬物治療学演習	8 4		生殖機能医学 (産婦) ㊦	生殖機能医学特論 生殖機能医学演習	8 4
	器官病理学 (1 病理) ㊦	器官病理学特論 器官病理学演習	8 4		腎泌尿器学 (泌尿) ㊦	腎泌尿器科学特論 腎泌尿器科学演習	8 4
	機能病態内科学 (2 内) ㊦	機能病態内科学特論 機能病態内科学演習	8 4		麻酔・集中治療医学 (麻酔・蘇生学) ㊦	麻酔・集中治療医学特論 麻酔・集中治療医学演習	8 4
	医用放射線学 (放射) ㊦	放射線科学特論 放射線科学演習	8 4	生体防御医学	分子病理学 (2 病理) ㊦	分子病理学特論 分子病理学演習	8 4
	臨床検査医学 (臨検) ㊦	臨床検査医学特論 臨床検査医学演習	8 4		感染制御学 ㊦	感染症病態学特論 感染症病態学演習	8 4
	病態制御外科学 (1 外) ㊦	外科腫瘍学特論 外科腫瘍学演習	8 4		ウイルス学 ㊦	ウイルス学特論 ウイルス学演習	8 4
	耳鼻咽喉・頭頸部 外科学 (耳鼻) ㊦	耳鼻咽喉・頭頸部外 科学特論 耳鼻咽喉・頭頸部外 科学演習	8 4		分子医動物学 ㊦	分子医動物学特論 分子医動物学演習	8 4
	口腔顎顔面病態外 科学 (歯科) ㊦	口腔顎顔面病態外科学特論 口腔顎顔面病態外科学演習	8 4		分子制御内科学 (3 内) ㊦	分子制御内科学特論 分子制御内科学演習	8 4
	胸部外科学 ㊦	胸部外科学特論 胸部外科学演習	8 4	脳神経医学	視覚病態学 (眼) ㊦	視覚病態学特論 視覚病態学演習	8 4
	薬剤部 ㊦	医療薬学特論 医療薬学演習	8 4		統合生理学 (1 生理) ㊦	統合生理学特論 統合生理学演習	8 4
社会環境情報医学	環境予防医学 (衛生) ㊦	環境予防医学特論 環境予防医学演習	8 4		精神行動医学 (精神) ㊦	精神行動医学特論 精神行動医学演習	8 4
	健康政策医学 (公衆衛) ㊦	公衆衛生学特論 公衆衛生学演習	8 4		脳神経内科部門 ㊦	神経内科学特論 神経内科学演習	8 4
	法医学 ㊦	法医人類遺伝学特論 法医人類遺伝学演習	8 4		脳神経病理部門 ㊦	脳神経病理学特論 脳神経病理学演習	8 4
	医療環境学 ㊦	医療環境学特論 医療環境学演習	8 4		脳神経外科部門 ㊦	脳神経外科学特論 脳神経外科学演習	8 4
	病態運動学 ㊦	病態運動学特論 病態運動学演習	8 4		脳神経小児科部門 ㊦	小児神経学特論 小児神経学演習	8 4
	救急・災害医学 ㊦	救急・災害医学特論 救急・災害医学演習	8 4	単位数：年間修得可能単位数 各部門名の下段（ ）書きは、旧部門名がある場合の部門名を略称で表す。 ㊦：基礎医学群を表す。 ㊦：臨床医学群を表す。			
	医療情報部 ㊦	医療情報学特論 医療情報学演習	8 4				

医学専攻博士課程（腫瘍専門医コース）授業科目表

区 分	授 業 科 目	必修・選択 の別	単 位 数
系統講義コース科目	臨床腫瘍学総論	必 修	2
	ゲノム形態学特論	選 択	2
	薬物作用学特論	〃	2
	薬物治療学特論	〃	2
	器官病理学特論	〃	2
	放射線科学特論	〃	2
	外科腫瘍学特論	〃	2
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学特論	〃	2
	口腔顎顔面病態外科学特論	〃	2
	生殖機能医学特論	〃	2
	腎泌尿器科学特論	〃	2
	麻酔・集中治療医学特論	〃	2
	分子制御内科学特論	〃	2
	脳神経外科学特論	〃	2
	血液学特論	〃	2
トレーニングコース科目	化学療法トレーニング	〃	6
	放射線治療トレーニング	〃	6
	緩和ケアトレーニング	〃	6
	血液腫瘍トレーニング	〃	6
	呼吸器内科トレーニング	〃	6
	消化器外科トレーニング	〃	6
	消化器内科トレーニング	〃	6
	呼吸器外科トレーニング	〃	6
	乳腺・内分泌外科トレーニング	〃	6
	泌尿器腫瘍トレーニング	〃	6
	頭頸部外科トレーニング	〃	6
	婦人科腫瘍トレーニング	〃	6
	小児腫瘍トレーニング	〃	6
	特別研究	必 修	10
アドバンスドコース科目	交流セミナー	選 択	2
	がんプロ合同セミナー	〃	2
	国際学会発表	〃	1

臨床腫瘍学総論、がんプロ合同セミナーについては、その一部をe-ラーニングの形態により、補完的に受講することが可能です。

生命科学専攻博士前期課程授業科目表

授業科目	必修・選択の別	単 位 数	
		1 年	2 年
分子生物学特論	選 択	4	
分子生物学演習	〃	2	
細胞工学特論 (ゲノム医工学特論)	〃	4	
細胞工学演習 (ゲノム医工学演習)	〃	2	
免疫学特論	〃	4	
免疫学演習	〃	2	
生体情報学特論	〃	4	
生体情報学演習	〃	2	
病態生化学特論	〃	4	
病態生化学演習	〃	2	
神経生物学特論	〃	4	
神経生物学演習	〃	2	
医学概論	〃	4	
医科学特論	必 修	2	
生命科学特別研究	〃	8	

備 考 生命科学学科以外からの入学者で、医学概論を履修していない者は、医学概論を必ず受講すること。

生命科学専攻博士後期課程授業科目表

領域別	授 業 科 目	単位数	備 考
領域Ⅰ	酸化ストレス学特論	2	選択科目
	予防医学特論	2	
	加齢医学特論	2	
	遺伝子医学特論	2	
	生体防御学特論	2	
	シグナル伝達学特論	2	
	分子腫瘍学特論	2	
	生命倫理学特論	2	
	神経分化学特論	2	
	医学概論	2	
領域Ⅱ	生物資源科学特論	2	
	応用遺伝子工学特論	2	
	生物応用工学特論	2	
	医療工学特論	2	
	水産資源応用学特論	2	

備 考 生命科学専攻博士前期課程以外からの入学者で、医学概論を履修していない者は、医学概論を必ず受講すること。

機能再生医科学専攻博士前期課程授業科目表

区 分	授 業 科 目	必修・選択 の別	単 位 数	
			1 年	2 年
基礎科目	分子細胞生物学特論	選 択	2	
	発生工学特論	〃	2	
	臨床人類遺伝学特論	〃	2	
	ゲノム情報医科学特論	〃	2	
	分子病理病態学特論	〃	2	
学際領域科目	生命倫理学特論	必 修	2	
	遺伝子再生医療学セミナー	選 択	2	
	産官学連携セミナー	〃	1	
コア専門科目	細胞分化・老化機構学特論	選 択		2
	細胞分化・老化機構学演習	〃		2
	システム生物学特論	〃		2
	システム生物学演習	〃		2
	臨床遺伝子再生工学特論	〃		2
	臨床遺伝子再生工学演習	〃		2
	臨床病態再生医学特論	〃		2
	臨床病態再生医学演習	〃		2
	ゲノム医工学特論	〃		2
	ゲノム医工学演習	〃		2
	組織器官発生学特論	〃		2
	組織器官発生学演習	〃		2
選択専門科目	遺伝薬物治療学特論	選 択		2
	遺伝子ベクター学特論	〃		2
	制御再建医学特論	〃		2
	蛋白質機能学特論	〃		2
	生物資源応用医工学特論	〃		2
特別研究	機能再生医科学特別研究	必 修	1 2	
臨 床 現 場 実 習		必 修		2

備 考 医学部医学科以外からの入学者は、臨床現場実習を必ず履修すること。

機能再生医科学専攻博士後期課程授業科目表

区 分	授 業 科 目	必修・選択 の別	単 位 数		
			1 年	2 年	3 年
学際領域科目	先端医療特別セミナー	選 択	2		
	生命倫理学	必 修	2		
コア専門科目	遺伝子・染色体機能医工学特論	選 択	2		
	神経機能再生学特論	〃	2		
	遺伝子再生治療学特論	〃	2		
	循環病態再生治療学特論	〃	2		
	細胞組織器官再生学特論	〃	2		
	遺伝子治療学特論	〃	2		
	遺伝子・染色体機能医工学演習	〃		2	
	神経機能再生学演習	〃		2	
	遺伝子再生治療学演習	〃		2	
	循環病態再生治療学演習	〃		2	
	細胞組織器官再生学演習	〃		2	
	遺伝子治療学演習	〃		2	
選択専門科目	再生外科学特論	選 択			2
	病態制御医学特論	〃			2
	分子シャペロン学特論	〃			2
臨 床 現 場 実 習		必 修		2	

備 考 医学部医学科以外からの入学者は、臨床現場実習を必ず履修すること。

保健学専攻博士前期課程授業科目表

区 分	授 業 科 目	必修・選 択の別	単位数
共通科目	医療倫理学特論	必修	2
	看護管理学特論	選択	2
	看護学研究方法特論	〃	2
	看護理論	〃	2
	医療情報処理学特論	〃	2
	保健医療学特論	〃	2
	保健学研究方法特論	〃	2
	ストレス医療学特論	〃	2
	腫瘍医療学特論	〃	2
専門教育科目	看護教育学特論	選択	2
	看護教育学演習	〃	2
	リハビリテーション学特論	〃	2
	リハビリテーション学演習	〃	2
	成人看護学特論	〃	2
	成人看護学演習	〃	2
	高齢者看護学特論 (H25不開講)	〃	2
	高齢者看護学演習 (H25不開講)	〃	2
	成育看護学特論Ⅰ (母性)	〃	2
	成育看護学演習Ⅰ (母性)	〃	2
	成育看護学特論Ⅱ (小児)	〃	2
	成育看護学演習Ⅱ (小児)	〃	2
	地域看護学特論	〃	2
	地域看護学演習	〃	2
	精神保健学特論	〃	2
	精神保健学演習	〃	2
	神経病態・遺伝子疾患学特論	〃	2
	神経病態・遺伝子疾患学演習	〃	2
	病態細胞学特論	〃	2
	病態細胞学演習	〃	2
	病態制御学特論	〃	2
	病態制御学演習	〃	2
	生体機能・情報解析学特論	〃	2
	生体機能・情報解析学演習	〃	2
	環境科学特論	〃	2
	環境科学演習	〃	2
特別研究	保健・看護学特別研究	選択	10
	医用検査学特別研究	〃	10

保健学専攻博士後期課程授業科目表 (統合保健学)

区 分	授 業 科 目	必修・選択 の別	単 位 数
共通科目	統合保健学研究方法特論	必修	2
専門科目	成育保健学特論	選択	2
	成育保健学演習	〃	2
	成人・高齢者保健学特論	〃	2
	成人・高齢者保健学演習	〃	2
	地域保健学特論	〃	2
	地域保健学演習	〃	2
	先進保健学特論	〃	2
	先進保健学演習	〃	2
	統合保健学特別研究	必修	4

臨床心理学専攻修士課程授業科目表

分野	区 分	授 業 科 目	必修・選択 の別	単 位 数
臨	必 修 科 目	医学概論	必 修	2
		臨床心理学特論Ⅰ	〃	2
		臨床心理学特論Ⅱ	〃	2
		臨床心理面接特論Ⅰ	〃	2
		臨床心理面接特論Ⅱ	〃	2
		臨床心理査定演習Ⅰ＊１	〃	2
		臨床心理査定演習Ⅱ＊１	〃	2
		臨床心理基礎実習 ＊１	〃	2
		臨床心理実習＊１	〃	2
		臨床心理学特別研究	〃	8
床	選択必修科目 A	臨床心理学研究方法特論＊２	選択必修	2
		心理統計法特論＊２	〃	2
心	選択必修科目 B	人格心理学特論＊２	〃	2
		発達心理学特論＊２	〃	2
	選択必修科目 C	人間関係学特論＊２	〃	2
		家族心理学特論＊２	〃	2
理	選択必修科目 D	臨床心理関連行政論＊２	〃	2
		精神医学特論＊２	〃	2
		心身医学特論＊２	〃	2
		発達障害心理臨床特論＊２	〃	2
	選択必修科目 E	老年心理学特論＊２	〃	2
		学校臨床心理学特論＊２	〃	2
		グループアプローチ特論＊２	〃	2
		臨床心理地域援助特論＊２	〃	2
学	選 択 科 目	心理療法特論＊２	〃	2
		基礎心理学	選 択	2
		基礎心理学実験	〃	1
		コミュニケーションの基礎	〃	2
		(e-learning) 医療と心理臨床＊３ (# 2 9)	〃	1
		(e-learning) 生活習慣病への介入＊３ (# 2 3)	〃	1
		(e-learning) 脳機能解析学＊３ (# 2 4)	〃	1
		(e-learning) 地域医療への取り組み＊３ (# 2 7)	〃	1

＊１ 通年

＊２ 選択必修科目各区分から必ず１科目を選択する。

＊３ e-learning は、次表の医学系研究科共通選択授業科目の一部です。

医学系研究科共通選択授業科目表（7つの教育コース）

コース	授 業 科 目	単 位 数
医学研究基盤 コース	医療倫理学（＃1）	1
	臨床医学研究基盤Ⅰ（＃2）	1
	臨床医学研究基盤Ⅱ（＃3）	1
	実験医学研究基盤Ⅰ（＃4）	1
	実験医学研究基盤Ⅱ（＃5）	1
遺伝子・再生 ・染色体工学 コース	染色体と遺伝子（＃6）	1
	蛋白質、酵素、脂質と疾患（＃7）	1
	遺伝子再生医学と臨床応用（＃8）	1
	臨床の遺伝子再生医学（＃9）	1
臨床腫瘍医学 コース	臨床腫瘍医学総論Ⅰ（＃10）	1
	臨床腫瘍医学総論Ⅱ（＃11）	1
	臨床腫瘍医学各論Ⅰ（＃12）	1
	臨床腫瘍医学各論Ⅱ（＃13）	1
	臨床腫瘍医学各論Ⅲ（＃14）	1
	臨床腫瘍医学各論Ⅳ（＃15）	1
感染・免疫・ アレルギーコ ース	免疫学概論Ⅰ（＃16）	1
	免疫学概論Ⅱ（＃17）	1
	感染症の基礎と臨床（＃18）	1
	アレルギー疾患の基礎と臨床（＃19）	1
生活習慣病コ ース	生活習慣病の病態Ⅰ（＃20）	1
	生活習慣病の病態Ⅱ（＃21）	1
	生活習慣病の治療（＃22）	1
	生活習慣病への介入（＃23）	1
脳と心の医学 コース	脳機能解析学（＃24）	1
	最近の精神神経疾患のトピックスⅠ（＃25）	1
	最近の精神神経疾患のトピックスⅡ（＃26）	1
	地域医療への取り組み（＃27）	1
救急・急性期 医療学コース	救急・急性期医療学（＃28）	1

下記科目は、臨床心理学専攻専用ですので、その他の専攻の大学院生は履修できません。

臨床心理学 専用コース	医療と心理臨床（＃29）	1
----------------	--------------	---

※7つの教育コースは平成25年度より内容を一部変更しているため、必ず新たに履修登録し、送付されるCD（またはDVD）により履修してください。